

沖縄公庫3社に出資 産業育成計3億8000万円

沖縄振興開発金融公庫（譜久山賞則理事長）は14日、産

額市、柴壽澤代表）に1億円、レキサス（うるま市、比屋根隆代表）に8千万円を出資したと発表した。出資は3月25日付け。

タピック沖縄は医療ツーリズムの本格展開に向けて、ユインチホテル南城の新館建設

を進めている。レキオスソフトは気象庁の地震活動等総合監視システム（EPOS）の開発と運用・保守に関わり、地震速報システムをパッケージ化して海外市場への事業拡大を図っている。ソフトウェア開発のレキサスは、他産業

との連携でクラウド型ビジネスの創出に取り組んでいる。リーディング産業支援はスポーツや健康、観光リゾートなど沖縄の優位性を生かした次世代産業の育成を目的に2014年度から始まった。本年度の予算は11億円となる。

リーディング産業向け出資

沖縄公庫、3社に3.8億円

沖縄振興開発金融公庫（譜久山富則理事長）は14日、2015年度リーディング産業関連企業向け出資

事業について、ソフトウェア開発業のレキオスソフト（那覇市）とレキサス（うるま市）、ホテル業のタピック沖縄（南城市）の3社に計3億8千万円を出資したと発表した。同事業によるIT関連企業への出資は初めて。

今回の出資などを加えて、タピック沖縄の資本は4億5500万円（うち沖縄公庫出資分は2億円）、レキオスソフトの資本は1億5千万円（同1億円）、レキサスは1億8400万円（同8千万円）になる。同事業は、沖縄を本拠地

に観光や情報通信、国際物流などのリーディング産業に関わる企業を支援するた

め、14年度に設立された。沖縄公庫の出資額を合わせて資本額が1億円以上になる企業・団体が対象で、総資本額の5割以内の限度額を出資する。問い合わせは同部産業開発出資班 ☎098（941）1775。